令和６年度第２回さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会
会議録

１　**日時**　令和６年１１月７日（木）　午前１０時００分から午前１１時３０分まで

２　**場所**　第６委員会室

３　**出席者**

（委　員）

飯野委員、清水委員、曾根田委員、田中会長、鳥海委員、新田委員、蔦島委員、
花俣副会長、松本委員、丸木委員

（オブザーバー）

さいたま市認知症希望大使　和田様

同　　大澤様

（事務局）

岩瀬課長、佐藤参与、松尾係長、田中主査、島崎主任、山本主事

４　**欠席者**

（委　員）

近江委員、小林委員、笹川委員、三谷委員、山田委員

５　**会議資料**

・「令和６年度第２回さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会」

・さいたま市認知症希望大使について

・国の認知症施策推進計画について

・さいたま市認知症施策の取組状況について

・次期さいたま市認知症施策推進計画について

・初期集中支援チームについて

・補足資料　　市報さいたま９月号（特集記事抜粋）

・追加資料　　レカネマブの使用経験（丸木委員より配布）

・参考資料１　　さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会設置要綱

（以下は希望者にのみ配布）

・参考資料２　　さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会運営要領・傍聴要領

・参考資料３　　さいたま市情報公開条例（抜粋）

・参考資料４　　さいたま市附属属機関等の会議の公開に関する要綱

６　議事概要

【１　開　会】

【２　いきいき長寿推進課長あいさつ】

（岩瀬課長よりあいさつ）

【３　資料確認】

【４　会議の公開】

〇事務局

続きまして、会議の公開についてご説明いたします。

本市の附属機関、協議会、懇談会、懇話会、研究会等の会議については、「さいたま市情報公開条例」第２３条により原則公開とさせていただいておりますが、不開示情報に該当する事項について審議する場合等は、「さいたま市附属機関等の会議の公開に関する要綱」第４条により、理由を明らかにしたうえで、会議の全部又は一部を非公開とすることができるようになっております。

また、本委員会につきましては、同要綱第８条に基づき、会議録を作成いたします。つきましては、そのための録音を行わせていただきます。会議録の作成に当たりましては、発言された各委員にご確認いただくこととなります。

本日は、皆様の目の前に、おひとりずつにマイクがございます。発言の際は、目の前のマイクの電源をいれて発言をお願いします。なお、発言がおわりましたら、マイクの電源を切っていただけますようお願いいたします。

それでは、田中会長にこれからの議事の進行をお願いいたします。

〇　田中会長

これより、令和６年度第２回さいたま市認知症の人にやさしい地域づくり推進委員会を開会いたします。

議事進行にあたりまして、各委員さんのご協力をいただきながら、進めてまいりたいと存じますので、皆様よろしくお願いいたします。

はじめに、会議の公開について申し上げます。さきほど事務局より説明がありましたが、会議については原則公開となるところです。今回の委員会では、個人情報等に関する事項がないことから、会議を公開とすることといたしますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、本日の委員会は公開といたします。

次に、本日は傍聴人の方はいらっしゃいますか。

○　事務局

傍聴人はいらっしゃいません。

○　田中会長

それでは次第に従って、議事を進めさせていただきます。本会議は、会議録を作成しますので、発言にあたっては、私より指名したのちに、ご発言いただきますよう、ご協力願います。

それでは、議題（１）さいたま市認知症希望大使についての説明を事務局にお願いします。

【議題１】さいたま市認知症希望大使について

（事務局より説明）

○　田中会長

ご説明ありがとうございます。

とても精力的な活動が、実際のいろいろな形で見えてきているようなことを伺いました。また本日、２人の認知症希望大使がお見えになっておりますので、実際にこの５ヶ月間大使として活動をなさる中で、どんなご感想や思いを持っておられるか、ぜひお話伺えればなと思っております。

あわせてまちづくりセンターのコーディネーターの方もお見えになっておられるので、認知症希望大使の方との進行をお願いしたいと思っております。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンターのコーディネーターの黒川と申します。まずは、和田さんからお話いただきたいと思いますので、自己紹介をお願いします。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様

和田傑といいます。年齢は 59 歳です。２年ぐらい前に、認知症の診断を受けて、若年性アルツハイマーという診断をいただいています。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

今、大使の活動の紹介が事務局からありまして、（活動を開始して）５ヶ月目という感じですけれども、実際に大使になったことによる、ご自身の変化というのは何かありますか。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様

認知症になって、いろいろ感じることがありました。その中で、認知症の方で、東京で同じような悩みを抱えている方がいらっしゃって、「大丈夫、認知症はあるけど、大丈夫だよ」と、そういう話もございました。僕も、希望大使ということで、明るく、楽しく生活していくように心がけて、お話をしたり、いろんな活動に参加したりさせてもらっていて、非常に充実しています。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

ありがとうございます。和田さんと一緒に活動させていただく中で、明るく楽しくっていうところが、本当にそうされているのだなっていうふうに思います。

一般的に見たら失敗談のようなことも本当に明るく、お話してくださって、皆さんの笑い

を誘っているところが、印象的です。
　何か大使になったことによる、周りの反響や反応ってありましたか。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　直接ではないですけども、以前に、子供の保育園の保護者同士で、家族ぐるみでキャンプに行ったりしていたことがあって。今回、大使になってチラシを配っていただいて、（それがきっかけで）しばらく会っていなかった保護者同士でランチ会をやったそうです。僕は行ってないですけど、それは非常に良かった。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　あとはかつての会社の同僚の方から、広報誌で（和田さんのことを）拝見したということでまちづくりセンターに電話があって、お繋ぎしたこともありましたね。
　こういった、たくさんの講座に出ていただいたり、オープニングイベントでも 200 人以上を前に登壇してお話してくださったりしていますけれど、緊張したりとかはどうですか。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　こういう場の方が緊張します。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　ありがとうございます。
　和田さんは大使になられて、いつもおっしゃっているのが「周りに助けて欲しいと思うからには、自分から発信して助けてもらわないと駄目だよね」っていうことです。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　そういうふうに心がけております。ただ、まちの人は、とても親切だなというふうに感じています。
　昨日も（道に迷ってしまって）、朝、保育園に子供を送迎する自転車の方に声をかけた。その方もあまり道に詳しくなかったのですけど、もう少し高齢の方が出てきてくれて、道を教えてくれたんで、そこで上手くいきました。
　マラソンの練習をしていて、それで迷っちゃったんですけど。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　最近は、認知症なのでわからなくて、ということもおっしゃっているそうですね。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　そうですね。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　あとは、なじみのお豆腐屋さんには、実は認知症なんですということもお話されたそうですね。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　はい。「またそんな冗談を言って」という感じになるところがあって。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　念押しで２度目も言ったというお話ですよね。
　今は週１回、若年性認知症カフェ「リンカフェ」と、私たちが開催しているカフェ「ちいとも」にも来てくださっています。先ほども、お仲間との出会いでいろいろ助けられということも仰っていました。最近は和田さんが参加する方に対して、励ましたりとか、アドバイスをしているような場面もあるかなと思いますが、何か意識して伝えていることはありますか。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　出来ないことは助けてもらって、できることを一生懸命やって、みんなで、まちの方に助けてもらうということですね。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　（私は）街中で道が分からないときに人に聞くのが苦手だったりするんです。そういうのは（和田さんは）得意な方ですよね。これは素晴らしい、もともとのご性格もあるのかな。負い目を感じずに、助けを求めた方がいいということですね。ありがとうございます。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　若者で、そこまで一緒に行きますよって言ってくださった方や、駅で迷ったときにスマホで調べて教えてくれた方もいます。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター
　あとは、今頑張っていることを、教えてください。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様
　さいたまマラソンに出ます。エントリーしていて。（マラソン用の）靴がなかなか履けなかったんですけど、今は一応履けるようになって。
　それと、靴屋さん。こんなインターバルで走ったらいいですよっていうのを教えてもらっ

て。それこそ靴紐が自分で結べないということを伝えた時も、女性の方がいつでも来てくださいって言ってくれている。もう３回くらい行っています。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

ありがとうございます。もう 10ｋｍ、20ｋｍと走っているとのことなので、良いタイムが狙えそうですね。

最後に今後の大使の活動に向けて、期待やこのまま続けたいことなどをお願いします。

○　さいたま市認知症希望大使　和田様

今、いろんなことをやっている。委員会があったり、リンカフェでは結構遠方から来てくれたりしているので、それからちょっと高齢の方もいらっしゃる。

そういうことで、いろいろなお話がよく聞けるので、いろいろと違う場に行ってみたり、お話したり、そういうことはなるべく続けたほうがいいかなというふうに思っています。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

では、和田さんの活動の紹介はこれで終わりにさせていただいて、次は大澤さんの方からお話しいただければと思います。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

認知症フレンドリーまちづくりセンターで同じくコーディネーターの久保田と申します。それでは、大澤さんの方から、自己紹介からお願いします。

○　さいたま市認知症希望大使　大澤様

私の名前は大澤健男と申します。現在の年齢は 68 歳。65 歳まで仕事をしていたんですけど、それから衰えたなと思っていたんですけど。自分の中であたまが小さくなってしまって、いろんな友達とかがいるんですけど、現実として、飛んでしまっている。

あれなんだかわからないとか、そういうのがここのところ、仕事も入ってないのもあって、コミュニケーションが減っているなと。

うちのかみさんも、そこはもう、まあ、そうなったらしょうがないじゃんというところで、いろいろやってくれる。

今 68 歳で、この後もう頭が良くはならないので、いろんな人間とコミュニケーションを取って。ちょっと私の方で不便なのは、それまでは、50 歳、60 歳とここまで、仕事でいろいろやっていたので、そういうコミュニケーションも結構取れてやりとりができた。ところが、65 歳を過ぎた後に、コミュニケーションが自分だけのところが増えてきて、もうコミュニケーションが取れないということで、しぼんじゃうっていうところが出来ているのですけども。

それは同じ年代の友達は、もう年だから何でもないと、コミュニケーション出来ているのがいいところかなと思っている。

ただ、今は 68 歳なので、これが 70 歳になってくるとちょっときついかなという思いはある。同じ年代の友達だと、いろいろなところでそういう話が出てきて、いろいろ教えてもらうことができれば、こっちが縮んじゃっているけど、もう少し考えて、頑張ってやっていこうというのが現状。

子どもたちも……こっち（日本）に一人、もう一人は海外に飛んでいる。何を言っているのかよくわからないこともあるんですけど。

これから 69 歳、70 歳となっていくのは、不安はありますけど、一生懸命頑張っていこうと。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

ありがとうございます。今お話いただいたように、大澤さんはとても人との繋がりを大切にされている方で、学生時代の友達もたくさんいらっしゃる。

いまだに飲みに誘われることもありますが、ご自身でもおっしゃっていましたけど、物忘れが少し顕著かなというお話もされている。最近も学生時代の友達に飲みに誘われたんですけど、やはり夜だと帰りが心配だということから、お断りさせていただいたのが残念だというお話をされていました。

またお友達に関しては、中学校や高校の友達についてはよく覚えているけれども、最近の友達の名前が出てこないという話もされていたので、物忘れについてはちょっとねっていう話をされていたのが印象的でした。

そういった中で、彼は「ちいとも」には毎週火曜日に参加をいただいて。大澤さんは「ちいとも」で役割があるんですよ。いつもやっていただいていることはなんでしょうか。

○　さいたま市認知症希望大使　大澤様

なんでしょう。

○　認知症フレンドリーまちづくりセンター　コーディネーター

最初の挨拶、乾杯をいつもやっていただいています。ぜひ皆さん、機会があれば「ちいとも」に来ていただければと思います。もうそろそろ、年の瀬が近づいてというお話をしてくださって、私たちも季節を感じながら、乾杯（の挨拶）を聞いています。

また、こういった形で人前に出てお話をしていただく機会もすごく多いんです。ご自身はお話するのは苦手だとおっしゃっているんですが、見ていただいた通りのお人柄の方で、とても雰囲気よくお話していただいています。

そういう形で、乾杯ですとか、カフェ「ちいとも」で役割を持って活動していただいているというのが、今の活動状況です。

○　田中会長

お話ありがとうございます。和田さん、大澤さん、コーディネーターの皆さん、ありがとうございます。

本当にやさしい雰囲気の中で、明るくて、いろんなことがあっても笑い飛ばしてしまうような、２人の人柄が伺えるような話で、私も（カフェ「ちいとも」に）いきたいなと思いました。

では、お２人の話も含めまして、希望大使についての事務局からの説明もありました。この内容につきまして、ご意見等ありましたら挙手にてご発言をお願いします。

○　丸木委員

事務局の説明ですと、（来年度）委員が変わったときに、希望大使の方も（委員として）入っていただくのではないかと思います。

委員以外にオブザーバーはこれが最後だという話だったのですが、このような形でオブザーバーとして参加することは無しということですか。

○　事務局

オブザーバーというのは会長が招集して来ていただくということです。委員となる場合、皆さまと同じように、意見も活発に発言できる立場になりますので、オブザーバーという単発よりも、委員として入られた方が、よりいろんな意見をお伝えする機会が増えるのかなと思います。

今回は要綱の改正も間に合いませんのでしたので、オブザーバーという形で入っていただきましたけど、次回からは委員という立場で入っていただいた方が、よりこのまちづくり委員会の趣旨にもあるのかなと考えております。

○　丸木委員

ただ、複数名（の当事者）が委員になるのは無理ですよね。ですから、どなたかになっていただいて、他の方はオブザーバーで参加する、というような形をとった方が、私はいいのかなと思っておりますけど。

○　事務局

お二人に関しては、オブザーバーとしての参加は今回限りという話です。

もちろん今後、当然そういうことも、今後もあり得ると思います。オブザーバーの要綱自体は残っておりますので、大使の方の１名が委員になって、他の方にはオブザーバーとして来ていただくという形は、当然残したいと考えております。

○　丸木委員

お二人だけだと、なかなかね。希望大使はもう少しいたり、女性の方もいたりするといいと思う。

何人か候補の方を、フレンドリーセンターを介して、どうか言ったら、なかなか進まないんですよ。いきいき長寿推進課の方で、いまいちノリが悪いということを言われておりまして。

例えば、推薦状とか、略歴とかを書いたものを提出して、しっかり考えていただくというようなルートを作ってもらうといいと思う。希望大使も変わることもあると思いますし、最近そういうことができそうな方も何名かいて、何名か（大使として推薦しては）どうかということで、話は持っていったことがあるのですが、途中で途絶えてしまっているのですよね。その辺は事務局どうですか。

○　事務局

希望大使の設置につきましては、市で要綱を作成しまして、それに基づき任命をするという形をとらせていただいております。こちらも従前の委員会の方でもご説明させていただいていますとおり、人数の制限や規定はございませんので、随時、その設置要綱の考え方に基づいて、大使の選任について柔軟に考えていきたいと考えております。

○　丸木委員

きちっと書式を作ってもらうとありがたいと思います。

私はこういう会に関わっているから、希望大使の推薦ができるのですけれど。各クリニックに来た方に関しても、どういうルートで希望大使を推薦したらいいのかっていうことはわかりません。

その辺、非常に曖昧で、推薦してくれたら見るという感じではなくて、推薦のルートだとか書式だとかを作っていただきたいと思うのですけれども、いかがですか。

○　事務局

設置要綱の中で、推薦に必要な書式というのは用意させていただいています。あとはその運用の部分で、より推薦ができるような形で、必要に応じて様式の見直しも含めて考えていきたいと考えております。

もう１つは、大使の活動はある程度その方のお名前ですとか個人情報が公開されるというところもございます。本人の発信を支援するという側面では、いろんな方に活動していただきたい一方で、もう１つは本人の意思もきちんと斟酌をしながら、選任を進めていきたいというのが、今のところの事務局の考え方となっております。

○　丸木委員

もちろん推薦する方は、本人の了解を得ていますから、その心配は全くありません。

○　田中会長

ありがとうございます。その他、ご質問等はいかがでしょうか。

○　花俣委員

今の丸木委員のご意見も、大変貴重だなと思います。

先ほど事務局の方からもご説明ありましたように、本人の意思というのは、とても重要だというふうに思っております。

先だって当会の代表者会議があり、本人理事として丹野智文さんが入ってくださっているのですが、「大勢の仲間たちと、自分は交流する機会があるけれども、オレンジ大使になって何がやりたいのって聞くと、ご本人さんが、『やってくださいと言われたからやっているだけ』っておっしゃる方が結構多い」と。

それってどうなんでしょうねと、彼は疑問を投げていました。

やっぱり、自らがその病気に罹患したことを受け入れて、他の方の励みや勇気づけになるための活動をしたいという意思があって、初めて本当の意味での希望大使じゃないかなというご提案、ご意見がございました。

私も全く同感なので、今の和田さんや大澤さんのように、誰かの役に立つのであれば自分の経験を生かしたいと、そういうお気持ちで、ご自身が手を挙げていただけるような社会になるのが一番理想かなと思っています。

加えて、先ほどご説明ありました要綱の改正についてですが、基本計画を受けて、会議に当事者や家族が参画することを要綱に明記していただけることは大変ありがたいと感謝申し上げたいと思います。

その上で、要綱までには組み込んでいただかなくても構わないのですが、運用面で、できれば２つお願いがあります。

まず１点目ですけれども、こういった会議に出席するにあたっては、ご本人が抱えておられる具体的な困難さを、私たちは、実は十分には理解できていないように思っています。もちろん当事者じゃないとわからないって当たり前のことですが。

例えば事前に資料をいただくだけではなくて、説明やレクといった機会を設けていただければと考えています。それが障害者権利条約によるところの合理的配慮ということにもなろうかと思います。

（２点目として）本人の代表ということだけではなくて、できればスムーズに協議で意見できるような環境を整えるということも、ご配慮いただけると大変ありがたいと思います。ご本人がどこの部分に不便さ、不自由さを感じておられるか、会議に出席するにあたって、それぞれの大使の方やご本人は様々な戸惑い等があると思います。その辺、よくご本人の思いを聞き取っていただいて、そういった配慮を事前にしていただけると、よりスムーズに、

こういった場に当事者の委員として参画していただけるのではないかなと考えています。
ご検討のほどよろしくお願いいたします。

○　田中会長
ありがとうございます。要綱の改正と運用面の話でのご発言があり、今後の検討というところでご意見いただいたということでよろしいでしょうか。
それでは議題１はここで終了したいと思います。

【議題２】国の認知症施策推進計画について
【議題３】さいたま市の認知症施策の取組状況について
【議題４】次期認知症施策推進計画について

○　田中会長
それでは、議題２から４ということで、事務局の方からまとめて説明していただきます。

（事務局より説明）

○　田中会長
今のご説明の内容につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたら、挙手にてご発言をお願いしたいと思います。

○　蓙島委員
資料 14 ページでおれんじパートナーの養成者数が出ていますけども、パートナーを養成した後のフォローアップが重要であると考えます。いかに活性化するか、いかに活用するかということが大事であって、数ではないと思います。
現在取り組んでいるおれんじパートナーの方の、活性化の取り組みというのはどのような部分か、具体的にお願いします。

○　事務局
もちろん養成者数というのは目標として計画上位置付けはしておりますが、その後の養成した方にどれぐらい活動していただくかというところも、大事な部分と認識しております。この対応といたしまして、おれんじパートナーのフォローアップ講座というのを開催しておりまして、これは新しく開設した認知症フレンドリーまちづくりセンターの方で、フォローアップとしておれんじパートナー同士の交流も含めて対応しているところでございます。
また、認知症フレンドリーまちづくりセンターにおいて、各認知症カフェですとか、地域

のチームにも出向いていただいて、活動の支援をさせていただいている状況でございます。

○　田中会長

ありがとうございます。その他、質問ご意見等ありますでしょうか。

では私から。今同じページ（14 ページ）の取組状況のところで、フレンドリー企業がたくさん増えている傾向がすでにあるので、とても素晴らしいことだと思うんですけれども、目標が令和８年度までの 900 件はすぐ達成しそうな目標であるなというところもあります。今、登録された企業さんや団体さんのところで、どんなふうな取組を行っているか、ポータルサイト等に反映されてくる状況なんでしょうか。あと、フレンドリー企業同士で何か交流があったりするんでしょうか。

○　事務局

まず、企業団体のホームページの公開状況ですが、ポータルサイトの方は掲載に向けた準備を進めている状況で、市のホームページで閲覧ができる状態となっております。

またフレンドリー企業団体の取組といたしましては、企業側から見ると認知症への関わりはさまざまございます。例えば認知症サポーターを企業内で養成していただくですとか、地域で活動しているチームに対して支援をしていただく地域連携の部分、また更に踏み込んでいくと、実際の企業の事業活動の中で認知症の方にとってやさしいようなサービスを展開していただいているというようなところを、各企業がそれぞれできるところでやっていただいているという認識でございます。

○　田中会長

ありがとうございます。いろんな方面の展開が見込めるような状況ということですね。

他にいかがでしょうか。

○　花俣委員

国の基本計画は、まだ決定に至っていないのですが、今後、閣議決定されて、それがどんどん下におりてくることになるかと思うのですけれども。基本計画の中でピアサポート活動の推進や当事者参画といったようなことがルール化されております。この中で、国が求めるものとして、行政職員は、実際にそのピアサポート活動の場に出向くであるとか、或いはそういうところで当事者とのコミュニケーションを深めるといったこともあわせて求められるようになろうかと思います。

先ほどの丸木委員のご意見にもありましたように、こういう委員会への参画委員を１名とか、委員ではなくオブザーバーとしてというようなお話もございましたけれども、当事者にとってはこういう場ってアウェーになるわけですから。この空間で、思うように自由に意見を表出するっていうのは結構ハードルが高いと思います。逆に自治体のご担当の方が、例

えば、カフェの場に出向いていただくとか、あるいは当事者の本人ミーティングの場をセットしていただくとか、そういうことで本当の意味での当事者の声を拾っていけるニーズを探るということも十分考えられますので、そういった点にもご配慮いただければ、と思っております。以上です。

○　田中会長

ご意見、いただきました。貴重なご意見ありがとうございます。

○　清水委員

チームおれんじの実際の活動として、皆さんの前でいろいろ発信はされているところもあり、本人同士のピアサポートってあったんですけど、それができるような雰囲気のチームおれんじがどれぐらいあるのか。認知症の方同士が話をしている、そういう雰囲気があるとカフェのようなイメージですが、そういうところができているところって、幾つぐらいあるでしょうか。

○　事務局

もともと地域で活動するチームの定義というのが、認知症の方のご本人が社会参画できる場ということで、地域で参画していただくというところがまず第 1 ステップかなというふうに認識しております。今委員からお話のあったピアサポートという観点で意識的にやっているチームが現状どれぐらいあるかというのは、こちらの方でも把握はしておりません。

ただ、実際にチームが活動するにあたって、事実上ピアサポートに近いような活動形態をとっているチームというのは、複数あるのではないかと認識しているところでございます。

○　丸木委員

各区での温度差みたいのが少しあるのかなと思って。このチームおれんじ、緑区はないですよね。後でちょっと述べますけれども、レカネマブを打ちに来る方も、緑区はいないんですよ。

緑区って、先進的な先生がいたんでうまくやっていたんですけれども、今ちょっと動きが悪いのかなって。温度差がありますから、うまく回ってない可能性もある区に関しては、少しチェックしていただけるといいのかなと思います。

すごく大きな自治体ですから、各区の特性もあるというところを踏まえて、少し強めのプッシュも必要なんじゃないか。

やはり身近な地域の中で、ふらっと立ち寄れる場とか、話ができる場とか、そういったところがポストの数ほどあれば、理想的だなと思います。この日ではなくて、来ていただければいつでもどうぞ、というふうに開かれた場が身近にあると安心できる。

引き続き皆様、どうぞよろしくお願いします。

○　田中会長
では、議題２から４をこのあたりで終わらせていただきたいと思います。

【議題５】初期集中支援チームについて

○　田中会長
では議題５の初期集中支援チームについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局より説明）

○　田中会長
事務局から説明がございました内容等につきまして、ご意見がありましたら挙手にて、ご発言をお願いしたいと思います。

（意見無し）

【議題６】その他

○　田中会長
続きまして議題６のその他に入りたいと思います。丸木委員より資料のご提供がございました。それでは丸木委員から資料についてのご説明をお願いしたいと思います。

（丸木委員より説明）

○　田中会長
お話ありがとうございます。とても重要だと思います。
それでは以上で、全体を通してということになりますが皆様からのご質問、ご意見等はありますでしょうか。

（意見無し）

○　田中会長
すべての議事が終了ということにさせていただきたいと思います。
それでは事務局へ進行をお返しいたします。皆様には会議の進行にあたってご協力いた

だきありがとうございました。

【５　閉会】

○　事務局

委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、長時間にわたりありがとうございました。

冒頭の課長の挨拶にもありましたように、委員の皆様の任期も３年目を迎えておりますことから、今回が任期中の最後の委員会となりました。

任期中の３年間の委員会は、コロナ禍でもあり、なかなか対面での開催が叶わなかったものでございましたが、委員の皆様からは様々な視点でのご意見を賜りましたこと、感謝申し上げます。

それでは、任期終了にあたりました、皆様からひと言ずつご挨拶を賜りますようお願い申し上げます。田中会長から時計回りで一言お願いできればと思います。

（出席委員より挨拶）

（事務連絡）

（閉会）